

令和2年2月20日

保護者 様

倉敷市立連島神亀小学校

校 長 山 田 素 道

学校評価アンケートの結果について

春の足音を感じるころとなりました。皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素から、本校教育の推進に対しましてご理解とご支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。

本年度も、学校教育目標「豊かな心とすこやかな体をもち、たくましく生きる児童の育成」の実現に向けて、保護者の皆様や地域の皆様の協力や支援をいただきながら、教職員で創意工夫をし、学校生活全般を通して子どもたちの教育に取り組んでまいりました。

また、昨年末には1年間を振り返るに当たり学校評価アンケートを実施しましたところ、お忙しい中をご協力いただきありがとうございますございました。今年度の取組に対する皆様からの評価を参考にさせていただきながら、来年度の連島神亀小学校の教育計画を立て、教育活動や学習環境をより一層よいものにしていきたいと考えております。

なお、報告として、右ページ及び裏面にアンケートの質問項目についての集計結果、考察を載せていますので、ご覧ください。

学校評価 アンケート 1 集計						アンケート回収率	77%		
	評価内容	A	B	C	D	E	平均点	昨年度比	
1	学校は、授業や行事など教育活動の様子を参観する機会をよく設けている。	63.2%	32.6%	3.6%	0.5%		88.6	-3.3	
2	学校は、地域・保護者の方の協力を得たり、地域を生かした教育をしたりしている。	45.7%	45.1%	8.7%	0.5%		81.7	-2.2	
3	学校は、子どもの安全を考えて、安全指導や施設・設備の整備を行っている。	38.6%	47.3%	12.0%	2.2%		77.0	-4.0	
4	学校は、子どもの教育についての相談や願いに応じ、保護者や地域との意思の疎通を行っている。	32.8%	48.3%	16.7%	2.2%		73.2	-3.3	
5	学校は、知育・徳育・体育のバランスのとれた教育を行っている。	38.7%	50.3%	9.9%	1.1%		78.9	-2.7	
6	学校は、自他の生命や人権を大切に育てようとしている。	35.6%	48.9%	13.9%	1.7%		75.7	-5.7	
7	子どもは、楽しそうに学校へ通っている。	64.8%	31.1%	2.6%	1.6%		88.7	+0.5	
8	子どもは、素直に育っている。	53.1%	42.7%	3.1%	1.0%		85.9	-2.5	
9	子どもは、落ち着いて学習する子に育っている。	35.2%	51.8%	10.4%	2.6%		76.7	-1.5	
10	子どもは、友達と仲よく学校生活を送っている。	58.0%	34.2%	7.3%	0.5%		85.5	-0.1	
11	子どもは、あいさつや返事やお礼が言える子どもに育っている。	32.6%	58.0%	8.8%	0.5%		78.4	+1.5	
12	子どもは、きまりや公衆道徳を守る子どもに育っている。	47.1%	46.6%	5.8%	0.5%		83.5	+2.1	
13	子どもは、家庭学習の習慣を身に付け、計画的に学習している。	26.0%	41.7%	26.0%	6.3%		63.8	-6.3	
14	教職員は、子ども一人ひとりをよく理解し、厳しさと優しさをもって、正しい行動がとれる子に育てようとしている。	35.8%	48.7%	13.4%	2.1%		75.7	-3.0	
15	教員は、子どもが楽しく分かりやすい授業になるように工夫している。	37.3%	50.8%	10.8%	1.1%		78.1	-5.1	
16	教職員は、相談しやすく、保護者との連携をうまく図るように配慮している。	37.5%	43.5%	16.8%	2.2%		74.3	-5.1	
17	教職員は、子ども間での「いじめ」について、適切に指導している。	33.8%	36.3%	26.1%	3.8%		67.5	-9.0	
A：そう思う		B：やや思う		C：あまり思わない		D：思わない		E：分からない	
Aを100点、Bを75点、Cを25点、Dを0点とし、それぞれにそれぞれの回答数をかけ、回答合計数で割って平均点を出している。（Eは除外、小数第2位を四捨五入しているため、合計すると100%になっていない項目があります。）									
平均点は、上位5項目を緑色、下位5項目をピンクにしています。									

学校評価考察

アンケート 1 から

- すべての項目で、肯定的な評価が多数を占めており、今年度の学校運営について一定の評価を得られ、ありがたく感じています。
- 1の項目は、各学期に学校自由参観日を設け、それ以外の日でも保護者が参観できるようにしていますことが評価されたと感じます。また、学校ホームページを継続的に更新し、学校の様子をできるだけリアルタイムに発信していることも評価されているのではないかと感じています。
- 7・8・10の項目は、今年度も自尊感情を育み、人権感覚豊かな児童の育成をめざして、人権教育に取り組んでおり、学習場面では、ペアトークやグループトークを行うことで、互いの考えのよいところを認め合いながら自信をもつことができるようにしたことや、学習の振り返りで友達の良さを全体に広めたり自分の良さに気付いたりするようにしたことの結果が表れたものと考えています。また生活場面では、あいさつ運動や無言清掃の取組、年2回行っている校内人権週間「なかよし週間」の様々な取組により、友達の良さを認め合うことの経験が増え、友達や教職員から褒められることで自分がしていることに自信をもてるようになってきている子どもが増えてきていることが成果につながっていると考えます。さらに子どもたちの人権感覚を磨いていけるように、今後も継続して人権教育に取り組んでいきたいです。
- 12の項目は、校内でのきまりだけでなく、休日前や一斉下校時など機をとらえて、公園での遊び方や自転車の安全な乗り方などについて繰り返し指導を行っており、そのことが生かされているのではないかと思います。地域の方から、「公園での遊び方について注意したところ素直に聞いて、次からはとても公園の使い方がよくなった。」とお褒めの言葉もいただいています。今後も繰り返しの指導を続けていきたいです。
- 13の項目は、否定的な評価の割合が多いです。家庭学習については、岡山県から示されている「子どもが伸びる家庭学習」を配布して保護者の意識向上を促したり、各担任が学年に応じた家庭学習の進め方を継続して指導したりしています。ただ、様々な事情をかかえている子どももあり、個人差も大きく、なかなか難しいところです。宿題、家庭学習に対する保護者のとらえ方も多様になってきています。今後も、保護者への啓発を丁寧に行い、個々の児童に応じた指導を繰り返すことで、家庭学習の習慣が身に付くようにしていきたいです。
- 17の項目も、否定的な評価の割合が多いです。大きないじめ事案は発生していませんが、学級集団になじめない子どもが数名おり、その子どもから暴力を振るわれたり悪口を言われたりすることが起こっています。保護者にも協力を仰ぎながら指導していますが、十分改善するところまではいたっていないのが現状です。そのことが、この数値に出てきているのではないかと思います。
- 11の項目については評価の分かれる項目で、アンケート2ではあいさつがよくなるようになったという意見も多数出ているのと同時に、あいさつがなかなかできないという意見も多数あります。あいさつができる・できないは、個によってかなり差があるようです。学校では、学校での生活について「あいさつ」「廊下を正しく歩く」「靴そろえ」「無言清掃」を4つの柱にして指導に取り組んでおり、児童会代表委員会を中心に「だれとでも」「大きな声で」「笑顔いっぱい」あいさつができる子どもをめざして、「あいさつ運動」を毎月行っています。保護者や地域とも連携を図りながら、進んであいさつできる子どもを増やしていけるように、今後も継続してあいさつについての指導に取り組んでいきたいです。
- 平均点が前年度より下がった項目が増えています。保護者の学校に対する厳しい目を意識しながら、前年度と同じことをするのではなく、子どもの気持ちや保護者の願いを考慮し、よりよい取組が行えるよう気持ちを新たに、新しい要素を加えて学習や行事、生徒指導に当たっていけるようにしたいと思っています。

アンケート 2 から

- ・ あいさつについては、「よいところ（よくなったところ）」と「悪いところ（指導が必要だと感じますところ）」の両方に多数の意見が出ています。あいさつについては、生活指導上の一つの柱にして、年度初め・終わりに時間をとって全校児童に指導したり、日々機会に応じて指導したり、毎月第2週に学年ごとに校門に立ち「あいさつ運動」を行ったり、また児童会で「あいさつ名人」を表彰したりするなどして、指導を継続したり子どもたちを称揚したりしたことで、あいさつがよくできるような子どもが育ってきていると感じています。このことは、地域ボランティアとして学校に様々な支援で来てくださっている方からも同様なお言葉をいただいております。しかし、子どもによって差があり、交通当番で立ってくださっているPTAの方にあいさつができなかったり、あいさつをしても応答がなかったり、下を向いたままだったりする子どももいます。逆に、とても元気よくあいさつができる子や、通学班長が元気よくあいさつするのでいっしょに登校している下学年の児童もそれにならって元気よくあいさつする班もあります。そのあたりがよいところ・悪いところの両方に意見が出ている原因だと考えられます。今後も、あいさつについて保護者への啓発、児童への指導・称揚を継続して行うことで、少しずつでも改善していけるように取り組んでいきたいです。
- ・ 「なかよし」「協力」「素直」「楽しい」「元気」というキーワードで括れる意見も多くありました。兄弟学年での活動（なかよし活動・ペア遊び・ペア給食・ペア読書）等異学年交流を多く取り入れ、上級生としての自覚と自信の向上を図っていることや業間時間は原則として外で遊ぶように指導していることなどが功を奏していると思います。「下の子のめんどろをよく見ている」や「男女関係なくなかよく遊べる」等のよい意見も多くありましたが、校外での遊び方や大人の目が届かないところでの遊び方などが悪いところとして意見が挙がっています。子どもからの情報を早めに捉えることができるように情報収集をし、いじめに発展しないように指導していきたいです。また、子どもたちが素直であれば指導も入りやすいと考えられますので、この良さを生かして今後も取り組んでいきたいと思ひます。
- ・ 悪いところでは、「交通マナー、自転車の乗り方」と「言葉づかいの悪さ」についての意見がたくさんありました。「交通マナーや自転車の乗り方」については、普段から様々な機会をとらえて指導を繰り返したり、交通安全教室を行って交通事故の恐ろしさや安全な自転車の乗り方等について学習したり、登校指導や下校指導も繰り返し行ったりしています。特に自転車の乗り方マナーの悪さを指摘する意見が多くありましたので、保護者への啓発をしっかり行い、連携を図りながら今後も継続して指導していきたいです。「言葉づかい」については、子ども同士のトラブルの原因となることも多く、たいへん気になる部分です。日頃から学習・生活場面を通して、話す相手に対して気持ちのよい言葉づかいができるように指導を進めるとともに、こちらも保護者への啓発を進め、連携して正しい言葉づかいが身に付くように指導していきたいと思ひます。

アンケート 3 から

- ・ 我々教職員の、児童への学習指導だけでなく生活面の指導への取組、トラブルへの早急な対応、安全面への配慮など、多くの事柄を評価していただき、お褒めの言葉を受けて大変うれしく、力づけられました。
- ・ 学校ホームページもよく見てくださっており、学校ホームページで見たことをもとに親子の会話をしていますと聞くと、とてもうれしく感じます。
- ・ ただ、学級集団になじめない子やすぐに暴力をふるう子に対して、その子どもに応じた指導をしているつもりではありますが、被害にあった児童の保護者や当事者ではない児童の保護者の視点から見ると、我々の対応が遅かったり手ぬるかったりするようにも見える方がいらっしゃるのではないかと思ひます。個別の事案を丁寧に説明して理解を得るといのはなかなか難しいことではありますが、今後も個に応じた指導は続けていきたいです。
- ・ その他にも様々な意見があり、今後改善していかなければならないことへの手がかりになる意見がたくさんあり、たいへん参考になりました。学校現場でできること、PTAに伝えてお願いすること、教育委員会や他の関係諸機関に依頼すること等、検討をして取り組んでいきたいと思ひます。